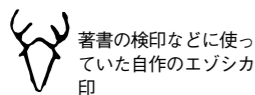


更科源蔵(さらしなげんぞう)  
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。  
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



23歳の更科(左)と21歳の真壁仁 1927(昭和2)年、山形に真壁を訪ねたところか



1965(昭和40)年9月 札幌に来た真壁と双子山の自宅前で(左が更科)



更科の第1詩集『種著』

## 『野の詩人 真壁 仁』

真壁仁は1907(明治40)年、山形県山形市で生まれました。野の詩人、野の思想家といわれ、山形を離れずに詩作や東北文化の研究を行い、奥羽地方の一部の地域で農民たちによって500年ほど前から伝承されていた土着の能「黒川能」を世に紹介した人物です。  
真壁仁と更科との出会いは1925(大正14)年、尾崎喜八の選で詩雑誌「抒情詩」に2人の作品が推薦されたことからでした。  
更科は弟子屈から詩雑誌「港街」や「北緯五十度」を、真壁仁は詩雑誌「犀」の同人として互いの仲間たちを誘い、作品を載せ、発行していました。  
更科の第1詩集『種著』(1930(昭和5)年刊)は、真壁の手によって山形で印刷され、その大半を山形近在でさばき、印刷費の一部を賄ってくれ、そして、山形で著者不在の出版記念会までしてくれていました。  
更科源蔵文学資料館の更科宛書簡で一番多いのが真壁仁からのもので、570数通があります。同じ日付の手紙もあり、顔を合わせて話したいことが山ほどあったことが伺えます。  
更科と真壁の文通の一部が「真壁仁研究」(真壁仁研究編集委員会編・東北芸術工科大学東北文化研究セ

ンター刊)に「真壁仁・更科源蔵往復書簡」(川田信夫斎藤たきち編)として紹介されています。昭和の初めころの若者たちが詩や文学に寄せる思いや、社会の不条理に対する怒りが、熱く語られているのです。  
更科源蔵へ  
(昭和2年4月3日 山形から)  
(略)港の兄の詩はよかった。  
君にはロマティックな抒情詩があるね！(略)  
真壁仁へ  
(昭和2年4月5日 東京 羽根田方から)  
今日 あらし。  
素晴らしいあらしです。ペエトーベン(詩)のあらしを思うような、その物凄(ものごど)いあらしのなかを実に明日の日光のやうに、君の手紙が私を訪れた(略)  
更科は真壁仁への返信に、友情に感謝する一片の詩を添えています。  
真壁は更科が初めて山形を訪れた時のことを晩年、  
その長髪の彼と(左上の写真参照)山形の夜を、イシャボルシアムジナークなんて歌ってあるいて、何やら異国の風俗みたいなものをまぎちらし…(略)  
と、互いの住む場所の遠さを感じていなかった青春を回想しています。



### 図書館だより

中央2丁目4番1号  
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆『おはなしはらっぱスペシャル』があるよ！  
読み聞かせ拡大版『おはなしはらっぱスペシャル』を開催します。  
絵本読み聞かせのほか、イベントを予定しています。

▼日時/12月14日(出) 13時~14時  
▼場所/図書館絵本コーナー

☆貸出冊数2倍フェア  
年末年始のお休み前に、たくさんの本を借りたい！という方のために、期間中、貸出冊数を通常の10冊から20冊へ拡大します。

▼期間/12月17日(火)~12月29日(日)

☆年末年始の休館日  
12月30日(月)~1月6日(月)休館です。

休館中、本の返却は図書館玄関横のブックポストをご利用ください。  
新年は1月7日(火)から開館します。

▼今月の休館日  
22日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)・31日(火)

### 新刊案内

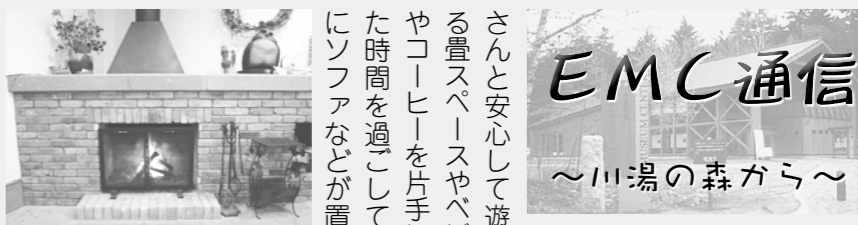
- 「黒書院の六平衛 上下」 浅田 次郎/著
- 「なぎさ」 山本 文緒/著
- 「傷」 堂場 瞬一/著
- 「二生モノの時間術」 鎌田 浩毅/著
- 「1万円起業」 クリス・ギレボア/著
- 「情報漏洩9割はあなたのうっかりミス」 中田 亨/著
- 「命がけで南極に住んでみた」 ゲイブリエル・ウォーカー/著
- 「スープ・ポター・ジュ・チャウダーの本」 星野 奈々子/著
- 「ありがとう！わさびちゃん」 わさびちゃん/著
- 「おぼけのゆきだるま」 ジャック・デュケノワ/作

たくさんのお待ちはお待ちしています！

### 中学生に贈りたい心の詩40

水内 喜久雄/編著  
大人になっていくとはどういうこと？  
自分はどう生きていきたいか？  
うれしいとき、悲しいとき、何でもなくてもちょっと時間があるとき、詩を読んでみませんか？  
凝縮された言葉。胸に響いてくる詩に出会ってください。

おすすめの最新刊



屋外の最高気温が1ケタ台になると、川湯EMC館内でタントツの人気を誇る「暖炉」です。  
小さなお子さんと安心して遊んでいただける畳スペースやベビーベッド、本やコーヒーを片手に、ゆったりした時間を過ごしてもらえらるようにソファなどが置いてあるコーナーの一角に、暖炉はあります。耐火れんがの中で薪が燃えていく様子

### この時期の一番人気！

を見ると、ほとんどの方から「わあ、本物の暖炉があるー！」や「やっぱり生火はいいね」といった言葉が聞かれます。薪をくべているスタッフとお客さまとの間で、暖炉談義が開かれることもしばしば。燃えやすい木や燃えにくい木の種類、薪の組み方、薪の調達方法などのほか、思い出話を聞かせていただいていると、過ぎていく時間の早いこと！何せスタッフもみんな、暖炉好きなものだから。  
これまでに子どもに火をつけてさせてもらえませんか「薪を入れてみたい」といった要望がありました。もちろん、すぐに体験してもらいました。燃え上がる炎を見ていると、笑顔が弾けまです。交流のきっかけも生み出す暖炉は、身も心もポカポカにしてくれます。

### 2階ギャラリー企画展 「トク撮・てしかが vol.2」 開催中！

11~12月の2階ギャラリーは、ツーリズムてしかがのガイドスタッフ2人による「撮っておき」の自然写真を展示しています。  
「お客さまに感動してもらうには、まず自分たちが感動すること」をモットーに、彼らがこの3年の間に撮りためた中から、悩み抜いて選んだ27シーンです。写真とともに伝わってくるアツい思いを、ぜひ、見て、感じてください。



川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100  
URL [http://www6.marimo.or.jp/k\\_emc/](http://www6.marimo.or.jp/k_emc/) 12月は9:00~16:00開館(水曜日、12/29日)~1/3(金)休館